



夢見た未来が、はじまっている。

今までにない価値を、お客さまと共に創り続けて55年。

ITで広がる可能性と共に、JBグループはその先へ。

願いを叶える未来は、すでに動き出しています。

Transform — ITのチカラで、未来を変えよう。

Thanks
55th
Anniversary

JBCC
holdings

第**55**期 株主通信

2018年4月1日～2019年3月31日

JBCCホールディングス株式会社

証券コード：9889（東証一部 情報・通信業）

代表取締役社長 ご挨拶

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当社の経営に一方ならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。この4月より事業会社のJBCC(株)に加え、JBCCホールディングス(株)の代表取締役社長も兼務させて頂くことになりました。

当社は、おかげさまで2019年4月に創立55周年を迎え、創業以来、2万社を超えるお客様にITソリューションを提案し、その開発、導入、及び運用サービスを提供しております。

第55期（2019年3月期）決算は、2021年3月期をゴールとする中期経営計画「Transform2020」の折り返しという重要な年度でありましたが、売上高及び上方修正した営業利益も予想値を超え大幅な増益となりました。また、自己資本利益率（ROE）及び1株当たりの当期純利益も過去最高となりました。



JBCCホールディングス株式会社
代表取締役社長

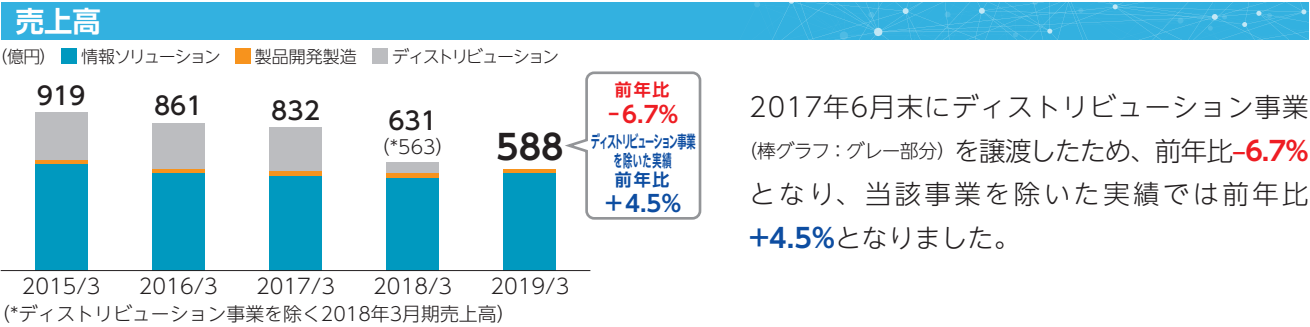
東上 征司

当グループの中期経営計画で定めた成長戦略「Transform2020」では、お客様の“デジタル・トランスフォーメーション（DX）”の推進を中心的なテーマとして、お客様と当社が共に成長しビジネスの成功を実現するという目標を掲げ、「WILD7」と名付けた注力分野（クラウド、New SI、セキュリティ、JBソフトウェア、ヘルスケア、3D、人財育成）に経営資源を集中し、順調に推移しております。

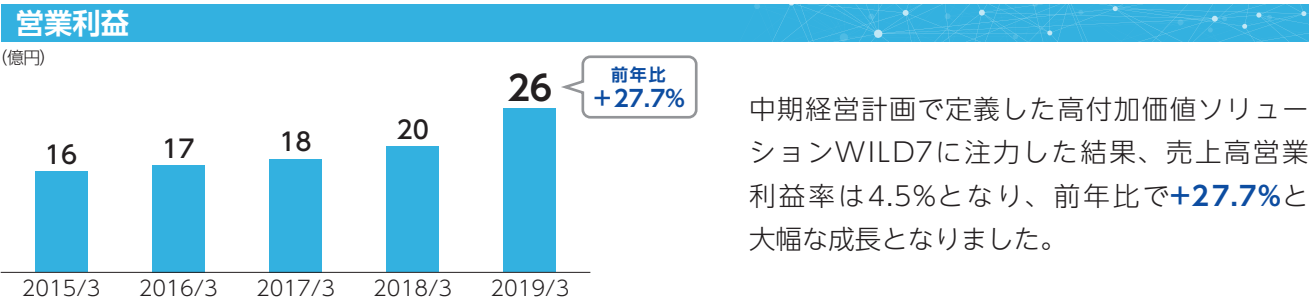
このような良好な経営環境の中、株主の皆様の投資への還元として、創立55周年の記念配当10円を加え、年間で計46円の配当とさせて頂きました。また、次年度の配当は、普通配当としては過去最高*の42円を予想しております。（*記念配当を除く）

私たちJBグループは、社員一人一人が明るく楽しく生き生きと、新しいことに果敢にチャレンジし、お客様と共に未来を切り開く企業グループでありたいと考えております。株主の皆様からも、今以上に期待される企業グループとなるべく変革を続け、ビジネスの拡大と発展を目指してまいります。引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

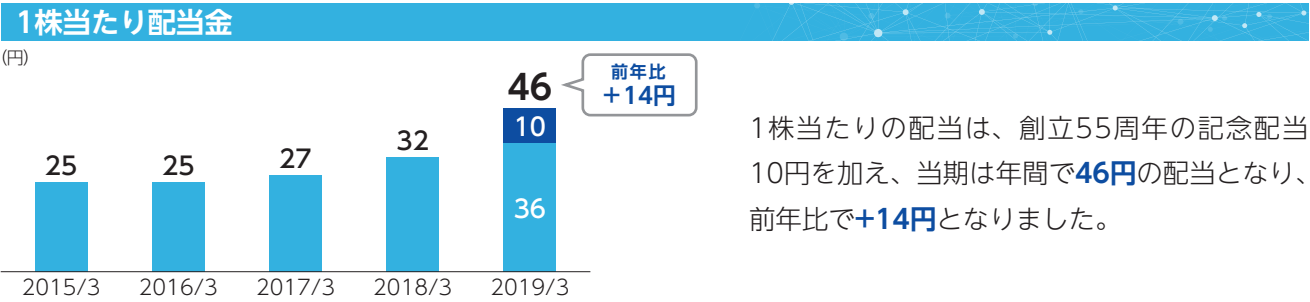
決算ハイライト



2017年6月末にディストリビューション事業（棒グラフ：グレー部分）を譲渡したため、前年比-6.7%となり、当該事業を除いた実績では前年比+4.5%となりました。



中期経営計画で定義した高付加価値ソリューションWILD7に注力した結果、売上高営業利益率は4.5%となり、前年比で+27.7%と大幅な成長となりました。



1株当たりの配当は、創立55周年の記念配当10円を加え、当期は年間で46円の配当となり、前年比で+14円となりました。

主な経営指標			
	2018年3月期	2019年3月期	対前年
売上高営業利益率	3.3%	4.5%	+1.2ポイント
自己資本利益率（ROE）	8.3%	11.6%	+3.3ポイント
1株当たり当期純利益	70.8円	106.4円	+35.6円

連結貸借対照表 (単位：百万円、端数切捨て)

科目	前連結会計年度 2018年3月31日	当連結会計年度 2019年3月31日
資産の部		
流動資産	21,150	23,597
現金及び預金	7,232	7,648
受取手形及び売掛金	11,399	12,369
商品及び製品	822	1,569
仕掛品	299	310
原材料及び貯蔵品	392	351
その他	1,003	1,347
固定資産	9,748	10,003
有形固定資産	2,073	1,977
無形固定資産	622	578
投資その他の資産	7,052	7,447
資産合計	30,899	33,600
負債の部		
流動負債	11,519	13,394
支払手形及び買掛金	4,749	5,256
短期借入金	370	356
リース債務	77	65
その他	6,322	7,715
固定負債	4,494	4,452
リース債務	108	93
退職給付に係る負債	4,014	3,761
その他	372	597
負債合計	16,014	17,846
純資産の部		
株主資本	14,526	15,253
資本金	4,713	4,713
資本剰余金	4,863	4,885
利益剰余金	5,645	6,823
自己株式	△695	△1,169
その他の包括利益累計額	341	481
その他有価証券評価差額金	837	918
為替換算調整勘定	12	△1
退職給付に係る調整累計額	△509	△435
非支配株主持分	16	18
純資産合計	14,884	15,753
負債・純資産合計	30,899	33,600

1 自己株式／財務活動によるキャッシュ・フロー

資本効率の向上を図るとともに経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、300,000株の自己株式の市場買付を行いました。

当期連結決算の詳細は当社ホームページ
(IR資料室(決算短信))に掲載しています。
<https://www.jbcchd.co.jp/ir/library/>

連結損益計算書 (単位：百万円、端数切捨て)

科目	前連結会計年度 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	当連結会計年度 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
売上高	63,107	58,999
売上原価	46,906	41,927
売上総利益	16,201	16,972
販売費及び一般管理費	14,140	14,340
営業利益	2,060	2,631
営業外収益	263	298
営業外費用	289	190
経常利益	2,034	2,738
特別利益	191	28
特別損失	22	—
税金等調整前当期純利益	2,203	2,767
法人税、住民税及び事業税	888	1,116
法人税等調整額	125	△133
当期純利益	1,189	1,784
非支配株主に帰属する当期純利益	3	2
親会社株主に帰属する当期純利益	1,186	1,782

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円、端数切捨て)

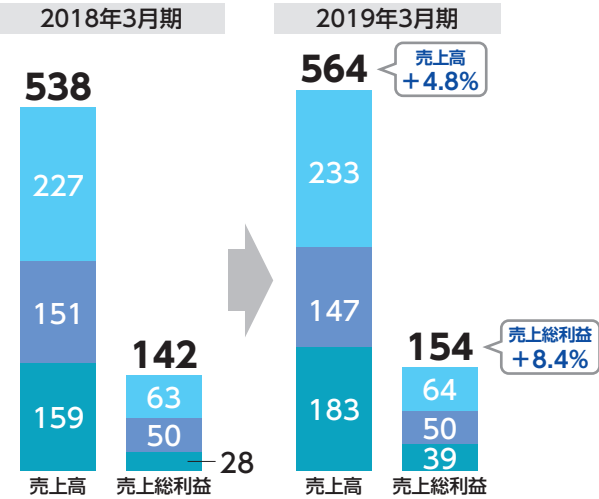
科目	前連結会計年度 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	当連結会計年度 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
2 営業活動によるキャッシュ・フロー	△647	1,837
投資活動によるキャッシュ・フロー	96	△178
1 財務活動によるキャッシュ・フロー	484	△1,194
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△73	454
現金及び現金同等物の期首残高	7,115	7,042
現金及び現金同等物の期末残高	7,042	7,496

2 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は、当期は税金等調整前当期純利益27億67百万円、法人税等の支払い9億70百万円等により、18億37百万円となりました。なお、前期につきましては、退職給付信託に20億円の拠出を行ったため、6億47百万円の資金の減少となっております。

情報ソリューション分野

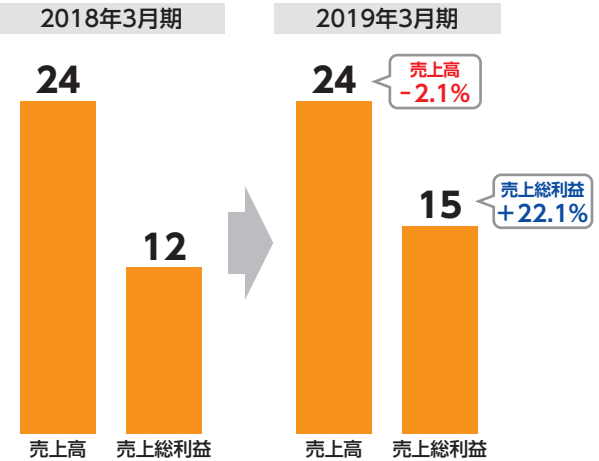
(億円) ■システム ■SI(システム開発) ■サービス



- サービスビジネスは、セキュリティサービスやヘルプデスク等の運用サービスが伸長しました。
- クラウドサービスは、AI関連サービスでのビジネスパートナーとの協業や案件の大型化により堅調に推移しました。
- SI(システム開発)は、大型案件のサービスイン等もあり前年と同水準で推移し、特に超高速開発やクラウドネイティブ開発等のNew SI(新システム開発)の取り組みが前年を上回りました。
- システムは、サーバーやWindows10更新に関わる特別な需要により大きく伸長し、次世代プラットフォームは付加価値の高いビジネスに注力し利益率に貢献しました。

製品開発製造分野

(億円)



- J Bソフトウェアは、社内外のシステム間の連携を効率化し情報の利活用を実現する「Qanat」シリーズ及び社内に蓄積する大量データを分析し、意思決定をサポートする「WebReport 2.0 Smart」等のツールのビジネスが伸長しました。
- 生産管理システム「R-PiCS」は、導入や開発が前年と同水準で推移し、バージョンアップに伴う入れ替えのビジネスも伸長しました。
- ハードウェアは、主力のインパクトプリンターの需要が縮小傾向でしたが、ビジネスパートナーとの協業やお客様へのリプレース活動とコスト削減に取り組み、利益を確保することができました。

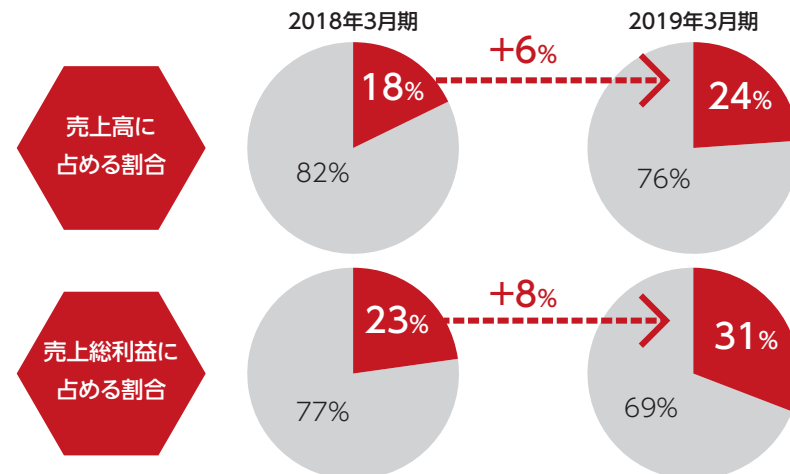
7つの注力事業

WILD7 ビジネス状況

当社の中期経営計画（2020年度まで）の『Transform2020』では、注力事業として7つの事業を定義しています。WILD7と名付けたこれらの成長分野は、お客様のデジタル変革に貢献する高付加価値ソリューションであり、中期経営計画の中核となる戦略です。



WILD7事業分野は、お客様に高い価値をお届けできるソリューションです。WILD7事業に注力し全事業に占める割合を増やすことにより、利益を押し上げることができます。2019年3月期は、売上に占める割合**+6%**、売上総利益に占める割合**+8%**と前年度から順調に伸長しています。



WILD7 事例

New SI事例

大手予備校様

アジャイル開発を基幹システム構築へ適用

メインフレームで稼働する基幹システムを超高速開発ツールとアジャイル開発手法を用いて構築。他社の提案に比べ約三分の一の1年半でサービスイン。また、ランニングコストも従来に比べ-80%と大幅削減。

これまでの教育分野での経験とスキルで、アジャイル開発手法をWebシステム構築だけではなく、大規模基幹システム構築にも適用することを実現しました。

お客様概要	J Bグループの提案	お客様にとっての価値
- 大手予備校様 [ITシステム]大学入試模擬試験やセンター試験の自己採点判定	- アジャイル開発 - 超高速開発 - リスク低減 - 開発ツール - 実績のあるGeneXus利用 - 基幹システムの知識活用 - 豊富な経験 - 高いスキル	- ランニングコスト 80%減 - スピード開発 三分の一 - スキル維持 技術の継承

クラウドサービス事例

業務用食品商社様

基幹システムのデータを現場で簡単活用

居酒屋チェーンが主なお客様。IBMオフコン（IBM i）にある在庫情報を営業担当がスマートフォンで検索し、ビジネスチャンスを見逃さず、迅速な提案が可能。LINEアプリケーションのため特別な教育の必要なく簡単に利用できるうえ、問い合わせアプリにはAIを組み込み、自然言語（口語）ですぐに検索可能。IBMオフコン導入済みの多くのお客様に最適なソリューションです。

お客様概要	J Bグループの提案	お客様にとっての価値
業務用食品商社様	- クラウドで外出先からのデータ活用 - スマホとAIチャットボットで簡単検索	- 迅速提案 成約スピード - 問い合わせ減 業務効率化 - LINEで簡単導入

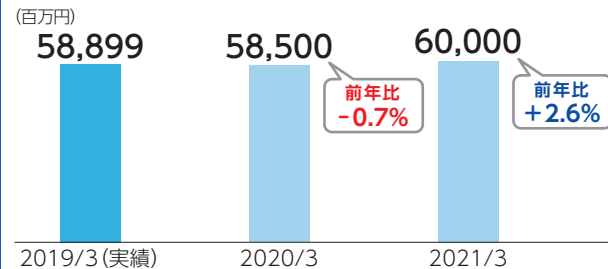
中期経営計画

今後のビジネス目標

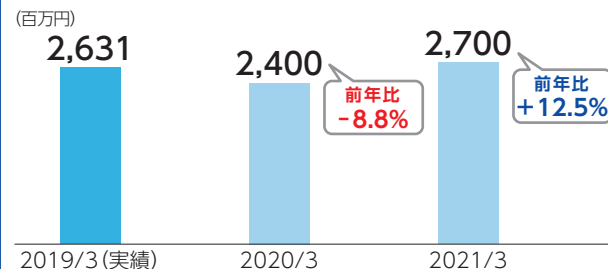
業績予想－連結

中期経営計画『Transform2020』に基づき、
堅調に推移します。

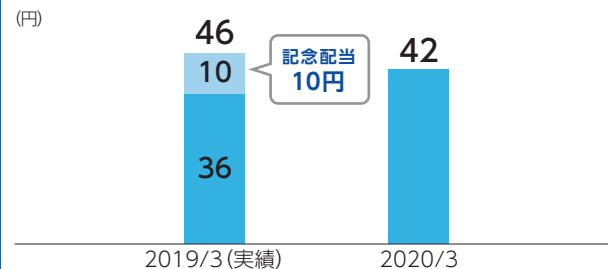
売上高



営業利益



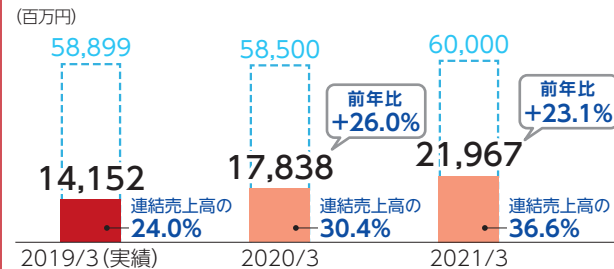
1株当たり配当金



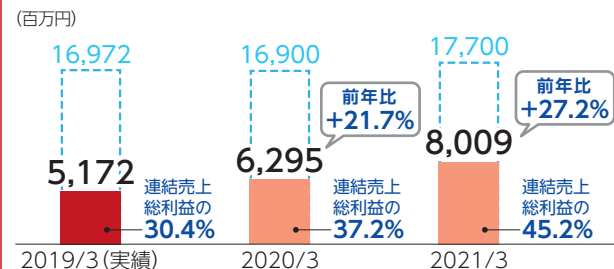
注力分野 WILD7業績予想

経営資源を集中し、
中期経営計画の中核事業として貢献します。

売上高



売上総利益



成長への原動力

成長の原動力は“人”。社員の声をお届けします。



ほしやす ひろみ
星安 宏美さん

私は、2001年の入社以来、IT技術者としてお客様のアプリケーション開発やプロジェクト管理を実施してきました。今年4月からは、ソリューション事業マーケティング本部第二マーケティング部の部長として、3名の部下と一緒にクラウド・サービスなどJBグループが持つソリューションの価値をお客様にお伝えする仕事をしています。

初めての管理職という役割で戸惑いもありますが、上司や先輩方、そして部下の皆さんの強力なサポートにより、少しずつですが一つのチームとしてまとまりが出てきたと感じています。

プライベートでは、小学生と中学生の2人の子供を持つ母親として子育ての真っ最中ですが。家族は、私のマネージャーとしての立場や仕事の大切さ、仕事に対する思いをととてもよく理解してくれていて、イベントなどの忙しい時期には、私が精一杯貢献できるよう配慮してくれています。そして、3名の部下も全員女性で、子供を持つ母親という同じ環境ということもあり、お互いに悩みを共有し、励まし合いながら仕事を進めています。

これから思ってもみないさまざまな悩みや課題が出てくると思います。私は、これからも上司や部下、同僚、そして何よりお客様と一緒にみんなで“明るく楽しく”乗り越えていきたい。そして、皆様からJBグループが爽やかで気持ちのいい会社だなと思って頂けるよう頑張ります。

さかした だいし
坂下 太志さん



病院を始めとする医療機関の営業としてヘルスケア事業を担当し、電子カルテを中心とする医療ソリューションを提案しています。JBグループでは電子カルテのほかにも、医療機関のお客様に活用いただける多くのソリューションがあり、個人情報を守るセキュリティソリューションなど注力ソリューションを積極的にご提案することがJBグループのお客様にとっての価値だと考えています。

JBグループでは、社内の取り組みとして2018年から『働きたい会社タスク』を立ち上げました。中長期で魅力のある会社になるにはどうしたらいいのかというテーマで、20-30代チームと40-50代チームに分かれ、人事・労務制度、企業風土、スキル向上などさまざまな観点で議論を始めました。私は、『働きたい会社タスク』20-30代チームのリーダーとして、若い世代が何を思っているのか、どうありたいのか、要望は何かをまとめているところです。その中での気づきの一つとして、若手社員は、給与や休暇などの待遇とともに、仕事に対する“やりがい”を求めていることがわかりました。人によって何に“やりがい”を感じるかは多様ですので、社員全員で同じ方向を指し示すような“指標”を定義すべきという意見が大勢でした。現在、それを具体化すべく全社員に問いかけながら、メンバーと積極的に活動しています。このような活動を通じて、学生や若者に“この会社で働いてみたい”と思ってもらえるような、“カッコいい”会社にしていきたいです。

持続可能な開発目標 SDGs

ＪＢグループは、グローバルに事業を行う企業体の一つとして、2030年に向けた持続可能な開発に関する17の目標と169のターゲットを定め、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に寄与することを意識して取り組みを推進しています。



日々の活動の中で、事業活動のみならず、地域・社会と共に企業市民としての活動にも取り組んでいます。取り組みの一部をご紹介します。

緑化活動

富士山の森づくり活動

2017年より、国内緑化活動として富士山麓に広がる人工林を本来の自然の森に再生する「富士山の森づくり」メンバーの一員となり、公益財団法人オイスカを中心に参加各企業や団体と連携し、継続して活動しています。年2～3回の活動で、補植、除伐、モニタリングなどを実施しています。活動には全国各地から社員が集まり、グループ会社間の親睦も図りながら、世界に誇る富士山の環境保全に関わる活動をしています。



ＪＢグループの活動が、公益社団法人国土緑化推進機構の発行する季刊誌「ぐりーんもあVol.85(2019年春号)」に紹介されました。

同封の株主様アンケートにご協力ください。

今後の経営やＩＲ活動に反映させていただくため「株主様アンケート」を実施いたします。

当株主通信に同封の「株主様アンケートハガキ」もしくは、当社ホームページよりご回答ください。

ご回答いただきました方の中より、抽選で200名様にＱＵＯカード（1,000円分）を進呈いたします。何卒、ご協力をお願い申し上げます。

※ お寄せいただいた情報は、当アンケート以外の目的には使用いたしません。

<https://www.jbcchd.co.jp/ir1906/>



会社概要・株式情報

会社概要 (2019年3月31日現在)

社名	JBCCホールディングス株式会社 (JBCC Holdings Inc.)
本社所在地	〒144-8721 東京都大田区蒲田5-37-1 ニッセイ アロマ スクエア 電話 03-5714-5171 (大代表)
設立年月日	1964年4月1日
資本金	47億1,375万円
グループ社員数	1,870名 (別途有期社員数：168名)

役員 (2019年4月1日現在)

代表取締役会長	山田 隆 司
代表取締役社長	東 上 征 司
取締役	谷 口 卓 三 星 義 明 高 橋 保 時 吉 松 正 三 長谷川 礼 司 (社外) 井 戸 潔 (社外)
取締役監査等委員	赤 坂 喜 好 (常勤) 今 村 昭 文 (社外) 渡 辺 善 子 (社外)

株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	86,000,000株
発行済株式の総数	17,773,743株
株主数	6,206名

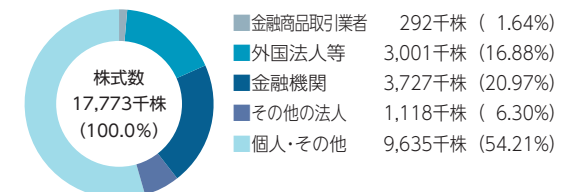
大株主 (上位10位)

順位	株主名	所有株式数	
		千株	%
1	ＪＢグループ社員持株会	1,289	7.81
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	921	5.59
3	GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	896	5.44
4	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	863	5.23
5	谷 口 君 代	418	2.54
6	富国生命保険相互会社	414	2.51
7	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	301	1.83
8	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	211	1.28
9	明治電機工業株式会社	200	1.21
10	安田倉庫株式会社	200	1.21

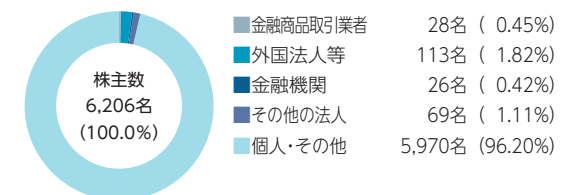
(注1) 上記には、当社名義の自己株式1,273千株は含まれておりません。
(注2) 上記の比率は「発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合」です。

所有者別株式分布状況 (2019年3月31日現在)

株式数



株主数



株 主 メ モ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
定時株主総会 毎年6月に開催
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話0120-232-711 (通話料無料)
電話042-204-0303 (通話料有料)
受付時間9:00～17:00 (土・日・祝日等を除く)
郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所
公 告 掲 載 U R L <https://www.jbcchd.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本
経済新聞に公告いたします。)

お知らせ 株券電子化後、配当金の口座振込のご指定は配当
金振込指定書を各口座管理機関（証券会社など）
を経由してお届けいただくこととなりました。
振込指定の詳しいお手続きにつきましては、お取引
先のある口座管理機関にお問い合わせください。

ソーシャルメディア
を活用し、情報を
お届けしています。



公式Facebook

<https://www.facebook.com/jbcchd>



公式Twitter

<https://twitter.com/jbcchd>



YouTube

JBグループチャンネル

<https://www.youtube.com/jbcchd>



JBCCホールディングス株式会社

決算などの財務情報に関するご質問は

☎0120-887-652 受付時間9:00～17:00 (土・日・祝日除く)

e-mail : ir@jbcc.co.jp



ホームページをご活用ください。

URL <https://www.jbcchd.co.jp/ir/>



決算などの財務内容、プレス
リリースなどを紹介してい
ます。ご質問、ご意見など
をお寄せいただくコーナーも
ございます。



動画配信

URL <https://www.jbcchd.co.jp/ir/library/movie/>

定時株主総会や機関投資家向け決算説明会の動画に加え、
個人投資家向けイベントでの会社説明など、当社経営者の
メッセージ動画を配信しています。



IRメール配信サービスのご案内

無料

当社ホームページの「IRニュース」などに掲載された各種
新着情報を、メールでご案内しています。

「株主・投資家情報」左メニューの「IRメール配信サービス」
よりご登録ください。



JBグループ各社の最新情報を
ご案内しています。

URL <https://www.jbgroup.jp/>



グループ各社からの「お知
らせ」や「製品、サービス (ソ
リューション)」、「お客様事
例」などをまとめてご確認
いただけます。
動画ライブラリーもご確認く
ださい。

